



《メサイア》より〈ハレルヤ〉

1949年 太田司朗訳

ハレルヤ
 全能の神すべたもう
 ハレルヤ
 あまねくよは
 神のしろしめたもう
 国となりぬ
 とこしえにすべたもう
 ときわにすべたもう
 みかみ 主の神
 とわの さかえ
 み国 主の神 ときわに
 とこしえにすべたもう
 とわの さかえ
 ハレルヤ

楽しく、無理なく、うまくなる!! あなたに合うコースがきっとみつかります

ヤマハ大人の音楽レッスン



管・弦・鍵盤・バンド系と、
バラエティ豊かなコースが揃っています!



感動を・ともに・創る

「無料体験レッスン」「レッスン見学」随時申し込み受付中

落ち着いたシックな雰囲気の中、それぞれの演奏レベルに応じた少人数レッスンで
 初心者の方も安心して始められます。レッスン後はラウンジでティータイムも。
 同じ趣味を持った気の合う仲間もできるかもしれません。
 はじめることから始まる…
 さあ、今からはじめてみませんか?



携帯・スマホQRコードからお申込の場合は

プレビアス紙屋町▶
 体験レッスンはこちらから
 お電話でのお問い合わせは下記まで
 ご連絡下さいませようお願い致します。



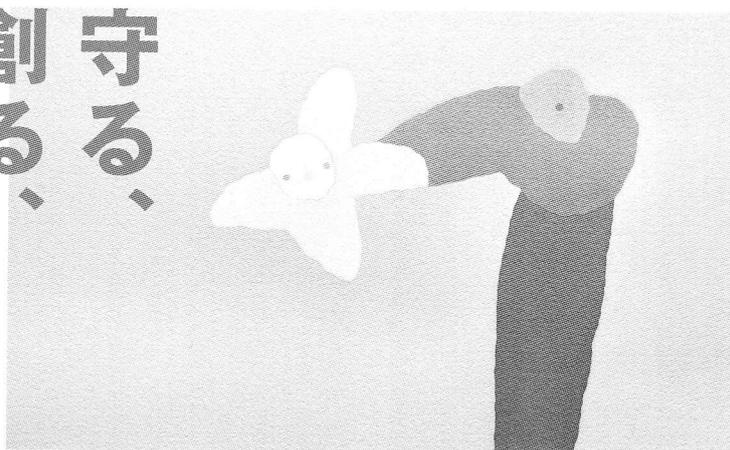
株式会社ヤマハミュージックリテイリング 広島店 プレビアス紙屋町
 TEL.082-244-3782

〒730-8628 広島市中区紙屋町1丁目1-18 ヤマハ広島店4～6F(受付6F)
 ■営業時間/【月～土曜】10:00～21:00 【日曜】10:00～19:00 ■定休日/祝日

プレビアス紙屋町 検索



守る、
 創る、
 思いやる
 ビルへ。



野坂徹夫：画

竹中工務店

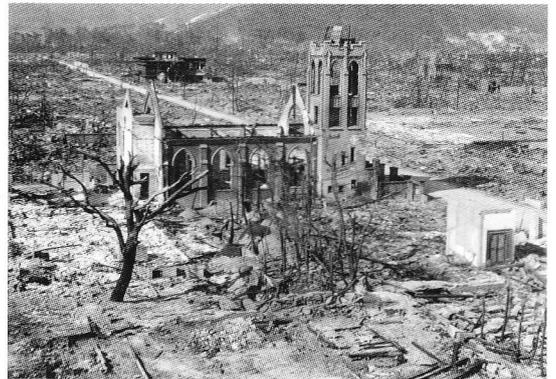
災害から人々の暮らしを守る。エネルギーを創り、分けあう。
 都市を、そして地球を思いやる。これからのビルはこうじゃないとね。

想いをかたちに 未来へつなぐ



広島流川教会が音楽と共に歩んだヒロシマ復興の足跡とその原点

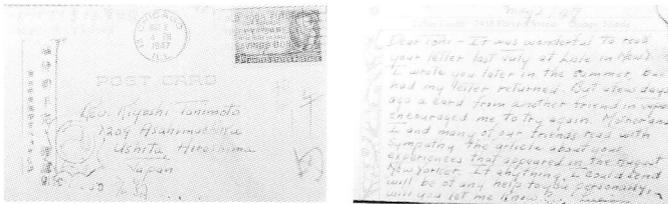
被爆地からほど近い場所に位置する広島流川教会は、被爆直後から復興への長き道のりを音楽と共に力強く歩み始めます[写真①]。



[写真①] (撮影/川原四儀 提供/広島平和記念資料館)

広島流川教会は、早くも被爆翌年には慈善音楽会のほか、広島市内の他教会と共に第1回市民クリスマス開催し、市民を音楽の力で勇気づけます。そして、まだ教会に大きな傷跡が残る被爆後2年目の1947年。1月4日には進駐軍・軍楽隊を招いた音楽会を開催し、被爆地ヒロシマに流れる楽器や歌声に、多くの市民が耳を傾けました[写真②]。

同年5月29日に、当時の広島流川教会・主任牧師の谷本清牧師のもとへ、留学時代の知人リリアン・コンディット氏から一通のハガキが届きます[写真③]。



[写真③] シカゴでの消印は同年5月2日

【ハガキの内容】

親愛なるタニ

昨年7月、ニューヨークのライルであなたからのお便りを受け取った時には、とても驚きました。それから少しして、お返事を書いたけれど、それは戻ってきてしまったわ。ところがその数日後、日本にいる別の友人からハガキが届いたのよ。それを見て、もう一度お返事を送ってみようと思ったの。8月、『ニューヨーカー』に掲載されていたあなたの経験に関する記事を読んで*1、母と私、それから多くの友人たちが案じています。あなたのお役に立つようなものは何かあるかしら。お送りしますから言ってくださいね。

リリアンより

*1 『ニューヨーカー』に掲載された、ジョン・ハーシーにより執筆された「ヒロシマ」というルポルタージュ。ここで谷本牧師は主人公の1人として描かれている。



[写真②] 1947年1月4日に広島流川教会で行われた進駐軍・軍楽隊と広島在住歌手との復興資金寄付感謝音楽会の様子。(中国新聞/1947年1月6日記事)

コンディット氏はこのハガキで、谷本牧師の安否を気遣うと共に、自身も手助けのため何か送れるものがあたら教えてほしいと申し出ます。そしてその申し出から5ヶ月後の1947年10月。ヘンデル作曲・オラトリオ《メサイア》の楽譜30冊がアメリカから贈られてきたのです[写真④]。

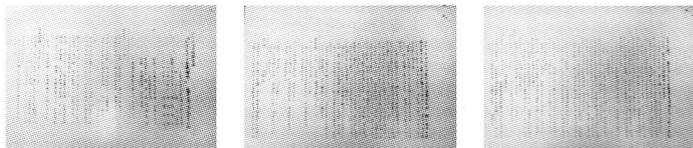


[写真④] 1947年、コンディット氏から送られた楽譜を手に《メサイア》を歌っている様子。左写真、上段左端が谷本清牧師、上段左から3番目が太田司朗氏、下段右端が畑とみえ氏。

それを契機として、広島流川教会の教会員であり、広島師範学校の音楽教師でもあった太田司朗氏を中心として教会員や師範学校の生徒による男女混声合唱の聖歌隊が組織され、その様子は新聞でも取り上げられました[写真⑤]。

そして、同年12月21日に教会で行われたクリスマス讃美礼拝のほか[写真⑥]、24日に行われた第2回市民クリスマスで《メサイア》の抜粋演奏会が行われました。

さらに同日の夕刻には「クリスマス特別番組『クリスマス音楽礼拝』」として広島流川教会からラジオ生中継が行われ、市民に向け、平和への道を音楽と共に歩むという彼らのメッセージが電波を通じて広く伝えられました。なお、本放送では聖書朗読や祈禱に加え、讃美歌2曲と、ここでも《メサイア》より〈ハレルヤコーラス〉の演奏が行われています[写真⑦]。



【写真⑦】「クリスマス特別番組『クリスマス音楽礼拝』」ラジオ番組進行表。

このように1947年の冬には《メサイア(救い主)》の歌声が広島に響き渡り、そこに生きる多くの人々がその演奏に心と耳を傾けました。これら一連の流れは、今日に至るまで《メサイア》が広島でクリスマス時季に演奏され続けていることと大きく関連していると考えられます。

さらに、音楽でヒロシマ、そして日本の平和的復興を願った谷本牧師及び太田氏は、音楽活動のみならず、これからの時代を担う幼い子どもたちへの音楽教育にも目を向けます。そして彼らは、太田司朗氏の生徒であった板野平氏を、ヒロシマ・ピースセンターの事業の一環として1951年にアメリカのダルクローズ音楽学校へ奨学生として派遣し、そこで得た新しい音楽教育の萌芽が広島のみならず日本中で開花し、拡がることを願ったのです[写真⑧]。

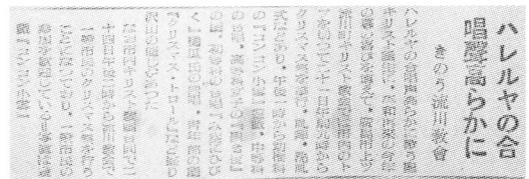
この願いに応えるように板野氏は帰国後、2009年にこの世を去るまで日本におけるリトミック教育の普及・発展に尽力し続けました。

——1945年8月6日、焦土と化したヒロシマ。

その時から始まった長きに亘るヒロシマ復興の道のりには、音楽と共に歩んだ教会の足跡があります。その足跡の原点には、音楽を通して平和を祈り、救いを求めた人たちの強い想いが込められています。



【写真⑤】《メサイア》の到着と、聖歌隊の組織を報じる記事。(朝日新聞/1947年10月15日記事)



【写真⑥】1947年、広島流川教会で行われたクリスマス賛美礼拝の様子と市民クリスマス参加の呼びかけをする記事。(夕刊ひろしま/1947年12月22日記事)



【写真⑧】板野氏がダルクローズ音楽学校へ留学することを報じた記事。(朝日新聞/1951年9月3日記事)

(文責・光平 有希)

【参考資料】
谷本清資料(故谷本チサ氏所蔵)

【主要参考文献】(50音順)
板野晴子「ヒロシマからのリトミック移入史-太田司朗の関わりを中心に-」『立正大学社会福祉研究所年報』第14号、2012。
谷本清『広島原爆とアメリカ人-ある牧師の平和行脚』日本放送出版協会、1976年。
谷本清『ヒロシマの十字架を抱いて』大日本雄弁会講談社、1950年。
中山裕一郎「特別寄稿 太田司朗先生とリトミック-日本におけるリトミック移入史の一断面-」『ダルクローズ音楽教育研究』第17号、1992。
日本基督教団広島流川教会編『写真による日本基督教団広島流川教会80年の歩み』日本基督教団広島流川教会、1967年。

Profile



乗松 恵美 (ソプラノ)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院独唱科修了。現在、京都市立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程在学中。マダム・バタフライ国際コンクールin長崎優勝。ひろしまフェニックス賞、広島文化賞新人賞受賞。「椿姫」「蝶々夫人」のタイトルロール他、多くのオペラに主たる役で出演、「メサイア」「第九」等、合唱曲ソリストとしても各地で演奏を行う。昨年、ソロCD「consolo」をリリース。日本演奏連盟、日本音楽学会会員。(財)地域創造公共ホール音楽活性化支援事業アーティスト。エリザベト音楽大学非常勤講師。ミリオンコンサート協会所属。



井上 美和 (アルト)

神戸女学院大学音楽学部卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノへ留学。広島シティオペラ「カルメン」カルメン、「蝶々夫人」スズキ、ひろしまオペラルネッサンス「カルメル会修道女の対話」ド・クロワッシー修道院長、関西二期会「アドリアーナ・ルクヴール」ブイヨン公爵夫人、ラプリーホール「アイダ」アムネリス、などでオペラに出演する他、ベートーヴェン「第九」、「ミサ・ソレムニス」などでアルトソロをつとめる。



頃安 利秀 (テノール)

関西学院大学文学部、東京藝術大学音楽学部卒。ドイツ・デトモルト音楽大学留学。原田茂生、H.クレッチマー、E.ヘフリガーの各氏に師事。1985年よりチューリッヒ歌劇場専属合唱団、88年からはバイエルン放送合唱団に所属。ヨーロッパ各地においてバッハの受難曲やヘンデルの「メサイア」、ハイドンの「天地創造」等の演奏会に数多く出演し好評を博した。第27回徳島県芸術祭最優秀賞を受賞。鳴門教育大学大学院教授。NPO鳴門「第九」を歌う会副理事長。



折河 宏治 (バス)

国立音楽大学卒業。同大学大学院修了。02年国立音楽大学大学院オペラ「フィガロの結婚」のフィガロでオペラデビュー。藤原歌劇団公演「イル・カンピエッロ」、「蝶々夫人」、「セヴィリアの理髪師」、日生劇場公演「ジャンニ・スキッキ」、「利口な女狐の物語」、「魔笛」、「フィガロの結婚」に出演するなど、多数のオペラに出演。また、「第九」、「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、フォーレ「レクイエム」など、多くの宗教曲のソリストもつとめている。現在、エリザベト音楽大学専任講師。